

大震災の時代を生きる

シンプルなたとえに秘められた深遠なる

キリストの解

ルカの福音書 10 章 25 – 37 節

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏

\*-----\*-----\*-----\*-----\*-----\*-----\*-----\*-----\*-----\*-----\*-----\*

皆様、おはようございます。先ほども“防災 7 つの道具” のことが言われてましたがもう 1 つ、「これ持っておいの方がいいよ」というのがあるようですね。笛です。自分がどこに埋もれているのかを声でやってもものどが枯れるし、体力なくなって来たらそんな気力もなくなる。でも日本製の笛、めちゃくちゃ遠くまで響くそうです。皆さん、笛もよろしくお祈りします。

1月17日はやっぱり…、ここに来られた方はほとんどが、その時関西におられたら覚えていると思います。この東住吉区の郵便番号は 546 なんですよ。だから朝の 5 時 46 分覚えてます。その時、私はサラリーマンでした。その日、九州でビッグビジネスが待ってたんです。その契約を結んだら、会社に大成果をもたらすというビッグビジネス。

ところが地震が起こって、港はダメ。地下鉄もストップ。道路は寸断。どうしても、このビッグビジネスを逃すわけにはいかない。レンタカーを借りて、迂回しながら通れる道を通って伊丹空港まで行き、車を乗り捨てて飛行機で九州に行って、無事に契約をまとめて帰って来ました。

そしたら翌週、雑誌『ニューズウィーク』が「日本人は産業ロボットか」という記事を出したんです。

「あの 1 月 17 日、神戸・大阪の人たちは、自分の目と鼻の先で、家屋に埋もれている同胞たちが何千人何万人いるかもしれないのに、皆出勤しようとしていた。アメリカ人なら、ボランティア精神を発揮して駆けつけたのではないか。」

今はボランティアは定着してるけど、その時はよく分からなかったんですね。私はその記事を読んだ時、何だか自分が恥ずかしい。確かに「何とか助けに行かなければ」というよりも、「どうにか飛行機に飛び乗ることができるように」ということに頭を使っていたんです。九州で車を運転しながら、ラジオで被害者の数がどんどん増えて行く。こんなにも大きな犠牲があったのかと知って、胸を痛めたことを覚えています。

ところが、震災が一番激しかった地区にいたにも拘らず、何一つ覚えてない人がいるんです。その人のことが産経新聞に載ってました。中村 翼（なかむら つばさ）という方です。彼はあの 1 月 17 日に誕生したんですね。自分が生まれた日のことなんか、だれも覚えてません。どんなに凄いことが自分の周りで起こっていたとしても、生まれた時の記憶なんか

無いじゃないですか。

だけど彼は、「1月17日に神戸で産まれた子供」ということで“奇跡の子”と言われた。毎年毎年1月17日が近づく度にテレビカメラがやって来て、両親の側にちょこんと座って「今、映されてるわ。」でも「奇跡の子、奇跡の子」と呼ばれることに、ものすごい葛藤がある。覚えてないから。

彼は小学5年の頃に、お父さんの会社の都合で兵庫県から出るんですが、中学3年の時に神戸に戻ります。クラスメートはずっと神戸で育っているんですよね。

この子たちは全員、震災の年か前の年に生まれている。

1月17日が来ると、「俺の母さん、あれで死んだ。」「俺のばあちゃん、あれで死んだ。」話をしてみたら、あの1月17日の大震災で人生の構図が変わったというか、コースが変わったというか、大ダメージを受けているクラスメートが少なからずいることが分かって来てね。

なぜ自分はピンと来ないのかというと無知だから。

彼が無知を痛感するのは、神戸学院大学の社会防災学科に行ってからです。

神戸学院大学社会防災学科は、阪神淡路大震災を徹底的に研究するところですよ。

そこで映像を見て、データを見て、被害者の画像を見て、断層を見て、色んな観点で防災をどうするか。そういうのを見ながら、こんなにえげつないことやったんか！こんなに凄まじかったのか！

初めて親に「あの日、僕が生まれた時、どうやったん？」と聞いたそうです。

5時46分、下から上に突き上げられるような、横揺れじゃなくて縦揺れ。

お父さんが条件反射で妊娠中のお母さんの上にかぶさって、本棚の本などが直撃しないように守って。揺れが収まってふと見ると、もう室内は散乱。

しばらくすると、マンションの窓から煙が立ち上って来て。火事です。

ここにいたら危ないと、すぐに避難場所に行くんですが、そこに着いた途端に破水。今にも生まれそう。でも、何にも無いんですよ。

とにかく産婦人科に連れて行かなあかん。「車取って来る。ちょっと待っててくれ！」朝の6時前、ブルブル震えている妻を一人残してね。

そしたら、近くにいるおばさんが「ここ入り！」言うて。車内のヒーターつけて「ここで暖まり」言うて。うずくまる妻を車内に入れてくれた。

ようやく10分ほどして車取りに帰ったんですが、道路は寸断されてるから、行きたい病院あるけどなかなか行けない。やっと辿り着いたら怪我人だらけなんですよ。しかも、その病院自体が傾いてる。電気・ガス・水道全部ストップ。

2時間待って「もう出て来る！」ナースが懐中電灯で子宮口を診ながら。

あの日1日で8000回余震があったんでしょ。微動じゃなくて大きな余震が何千回もある。揺れながら、地震の只中で産まれたんです。

それを両親から聞きながら、「俺はなんと無知だったんだ！俺は生きて来たんじゃない、生かされて来た。俺が生きるために、どれだけの人が闘って協力して助け

て…」実は出産直後に、揺れのために警報が鳴って「今すぐ病院出てください！」間一髪で出たそうです。「まさに自分は命を授かったんや。」  
だけど、無知だとそんなことが分からない。無知で知らないからといって、事実がなくなるわけではないですね。事実を知ることによって、「自分は多くの人の犠牲によって生かされて、今がある。」

この前イラストを見ました。浜辺できれいな所でヤシの実があって、2人の若い男女が肩組んでデートの最中か何かで、きれいな夕焼けを見てて。ハワイのリゾート地かなんか、のどかな美しい自然環境。  
ところが、砂浜というか大地が円盤になってるんですよ。その円盤の下でおびただしい戦士たち・兵士たちが手を挙げて、下から支えてるんです。

80年前、アジア太平洋戦争／大東亜戦争。今は太平洋戦争という言い方はしないですけど、あの戦争を終えるために、どれだけたくさんの方が亡くなったか。歴史を知らないと、今の自分が生きているのが全部なので、当たり前になって来てるんですよ。

無知って罪ですねえ。生きる権利の前に、恵みだということがよく分かります。もっともっとさかのぼるなら、神は私たちが罪を犯した後も、私たちを生かすために、永遠のいのちを与えるために、絶大な犠牲を払ってくださった。  
どんなに大きな犠牲を払ったという事実があっても、その事実に対して無知なら「別にそんなん要らないし、関係ないから」となるんじゃないでしょうか。

私たちの命は死につつある命でしょ。いつか死にますよ。  
でも聖書は、「人間は死んでゼロになるのではなくて、死後の世界がある」と言ってます。死後、魂の故郷に帰るいのち。永遠のいのち。  
そのいのちを得るためにどうしたらいいのかという質問をした人の話から、今日はいのちという問題について考えます。

## ルカ 10 章

**25** さて、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスを試みようとして言った。「先生。何をしたら、永遠のいのちを受け継ぐことができるでしょうか。」

**26** イエスは彼に言われた。「律法には何と書いてありますか。あなたはどのように読んでいますか。」

**27** すると彼は答えた。「『あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くし、知性を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい』また『あなたの隣人（となりびと）を自分自身のように愛しなさい』とあります。」

律法の専門家は聖書の専門家と考えていいです。  
ここでイエスに一応聞いてます。「あなたはどうもメシアらしいな。神から遣わされた救い主らしいな。じゃあちょっと聞きたいんだけど、永遠のいのちを持つためには、何をしたらいいんでしょうかねえ。」  
質問しているけど、本当に聞きたいと思ってる質問じゃない。

どうしたら罪赦されて、永遠のいのちをもらえるのか聞きたいのではなく、「俺はできてるし」というね。「私は完璧なんでね。人間だからダメなところもあるかもしれないけど、私は十分出来てる」と思って、自分の正しさを証明するために聞いている質問なんです。

聖書をよく読んで覚えて研究しているからといって、神が分かっているか、聖書が分かっているかは別です。

日本では残念なことに、牧師でも救われていない牧師はなんぼでもいます。「教会に入ったらクリスチャンになるから怖い」と言う人がいるけど、ガレージに入ったからといって自動車になりますか。マクドナルドに入ったからって、ハンバーガーになりますか。変わらへんやん。教会に来たくらいでは変わりません。聖書を正確に理解する必要があるんです。

律法とは旧約聖書のことです。旧約聖書には戒律／掟が全部で 613 あります。613 を 2 つに分けると、248 の「しなさい」という命令と、365 の「してはならない」という命令があります。ユダヤ人たちは「613 の命令を全部、毎日守ります！」守ってますと言い切れなはずだけど、この人は守ってるという自信があるんですね。非常に宗教的な生活をしていました。

613 をギューツと濃縮還元して、エッセンスを 2 つにまとめたら 27 節です。あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くし、知性を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。神を礼拝しなさいということ。また『あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい。』

私は去年の年末に、外務副大臣と 4 時間話しました。聖書の話ですよ。中東の話しようと思ってたけど、ちょっとずれてしまったんですね。ちょっとずれて 4 時間かいと。言われました。「高原さん、前段長いな。」その方は鹿児島県選出の衆議院議員で、今外務副大臣をなさってます。まず共感する話から入りたいと思って、「私は西郷隆盛のことが好きです」と言ったんですよ。鹿児島県の人で西郷隆盛が嫌いな人ってまずいない。せごどん。大阪人は豊臣秀吉って言うじゃないですか。敬称付けないでしょ。せごどんとか西郷さんとか、歴史上の人物にさん付けする。

「西郷隆盛、すごく尊敬してます」と言ったら、目がキューンと光りましてね、「僕の後援会長は西郷隆盛のひ孫で、西郷隆文（さいごう たかふみ/1947-）というんです。」「ええ！まだ生きてはるんですか！」そこから西郷隆盛について互いの知見をぶつけ合いながら、途中から麻生太郎の話になってですね。麻生太郎のご先祖は大久保利通です。大久保利通は、西南戦争で西郷隆盛を討つ側に立った人。麻生太郎さんも九州出身でしょ。だから大久保派と西郷派に分かれるけど、両方とも尊敬していると話されてました。

西郷隆盛が「何か揮毫（きごう）してください、サイン書いてください」と言われ

た時に必ず書いたのが、四字熟語で「敬天愛人」。そして「南洲書」と入れました。南洲は西郷隆盛の号で、書は自分のオリジナルの言葉ではなく、別の文献からの引用、他に書いてあったのを、お気に入りなので引用したということを表します。

「敬天愛人」は西郷隆盛のオリジナルではなく、別の文書に書いてあったものを引っ張って来たということなんですね。

西郷隆盛は陽明学の大家ですが、陽明学の本にこの言葉は出て来ません。

四書五経にも論語にも出て来ない。

ずっと辿って行って簡単に言うと、今読んだところです。「心を尽くし、思いを尽くし、精神を尽くし、知性を尽くして、あなたの神を敬え。」

天は宇宙のことではありません。中国語で天帝（天のみかど）と書くと、宇宙を創った創造主のことです。

あなたの創り主を全身全霊で愛し、敬い、礼拝する。これが“敬天”。

“愛人”は不倫相手のことじゃないですよ。分かると思いますが。

自分の隣人を自分と同じように愛するということです。

旧約聖書 613のエッセンスを2つにまとめたらこうなるんですが、それを4文字でまとめたのが“敬天愛人”。

一説によると、日本最古のプロテスタント教会である横浜海岸教会で、彼は洗礼を受けている。で、洗礼のお礼ということで黒豚2匹を寄進したという。

洗礼を受けたら洗礼名簿というのがあるそうですが、関東大震災でこの教会は焼け落ちたんです。だから、それ以前に洗礼を受けた人たちの名簿が今は無いので、エビデンスとして文書で証拠出せと言われてたら出せないんですよ。

でも、そういうことがあったと書いている文書はあるんです。

「旧約聖書の613のことをやれば、永遠のいのちが与えられる」と言うんですが、なぜ書いてあるのかというと、「それはできないでしょ」ということを分からせるためなんです。

「このように正しく生きたら永遠のいのちが与えられる。でもできないでしょ。」

「私にはその力はないんだ」と分からせるために書かれたのが律法なんです。

律法の目的は「私は正しい」ということを立証するためではなく、「自分の力ではこのレベルには到達できません。正しく生きられません。時々には正しいことをするけど、正しいことしかしないという生き方は、私には無理です。」

これを自覚させるのが律法なんですよ。

**28 イエスは言われた。「あなたの答えは正しい。それを実行しなさい。そうすれば、いのちを得ます。」**

それを実行しなさいというのは、「実行できてないだろ。これから実行してみなさい。」この人はカチーンときたんですね。

「何を言ってるんだ。私が今までどんな宗教生活やって来たのか分かっているのか！」ということで

**29** しかし彼は、自分が正しいことを示そうとしてイエスに言った。「では、私の隣人とはだれですか。」

私が自分のように愛さなかった隣人がいるとでも言うんですか。

私の隣人とはだれですか。

隣人は、物理的に自分の隣にいる人のことじゃないんですよ。皆さん、今隣人いる。地下鉄に乗ったら隣人いる。隣人とは自分が関わる人のことなんです。

それを分かりやすく示すために、イエスは、隣人を愛するとはどういうことかをとたとえで話されました。それが、超有名な“良きサマリア人”のとたとえです。

**30** イエスは答えられた。「ある人が、エルサレムからエリコへ下って行ったが、強盗に襲われた。強盗たちはその人の着ている物をはぎ取り、殴りつけ、半殺しにしたまま立ち去った。

**31** たまたま祭司が一人、その道を下って来たが、彼を見ると反対側を通り過ぎて行った。

**32** 同じようにレビ人も、その場所に来て彼を見ると、反対側を通り過ぎて行った。

祭司やレビ人は宗教の専門家で、半殺しにされてそのままなら死んじゃうよという人を見た時に、関わりたくないと反対側に行った。距離を置いた。

まだ強盗がいてるかも分からないし。血だらけの人に関わって背負ったら、自分の服にも血が付く。汚れる。

なぜ関わろうとしないかということ、関わったら自分が被害を受けるかもしれないし、自業自得と思っているからなんですよ。

ある人が、エルサレムからエリコへ下って行った。

エルサレムは神の都。当時は神殿がありました。神殿は別名“神の家”。

礼拝する聖なる都エルサレム。

エリコは旧約聖書で一度潰された町で、二度と再建したらあかんと命じられていた。

ところが再建されて、再建した人は変死、打たれて死んでしまうという。

ユダヤ人の常識では、エリコという地名は聞いただけで呪わしいもの。

地名聞くだけで、なんかジーンと来るってあるじゃないですか。

私は針中野（はりなかの）聞いただけでジーン来るんですよ。針中野で育ったからね。何とも言えない母の温もりのような…。だけど新世界と聞いたら、なんか怖いという感じするんですよ。新世界の方おられたらすみませんね。私の偏見ですから。

地名とイメージ、結びついていると思うんです。

ユダヤ人はエリコと聞くと「えっ！」

エリコは呪われた町ですが、自然環境は非常にいいんです。温暖で。

そしてオアシスがある。ユダの荒野にあるんですけど、エリコには淡水が湧いて必要な水があるので、再建したらあかんと言われても言われても、昔からエリコの町はあって、世界最古の町の一つなんです。人類が散らされた後、既にエリコはあったと言われているんですね。テル・エリコ。呪わしいけど住み良い。

そんなところに住むのを全く気にしない人たち、「神が何を言おうが関係ねえ」と言うような人たちが住んでいる遊興の町、夜遊びの町、歓楽街。歌舞伎町みたいな。

エルサレムからエリコへ下って行ったという段階で、「聖なる都に背中を向けて、ドロドロしたエリコになんか行くから、途中で強盗に襲われるんだ！」と。良いことをして襲われたのではなくて自業自得。自分が蒔いた悪い種の刈り取りを自分がやっているだけで、当然のことだから助けようとしなかった。

### **33 ところが、旅をしていた一人のサマリア人は、その人のところに来ると、見てかわいそうに思った。**

旅をしていた一人のサマリア人。旅は英語でトラベル。トラベルの語源はトラブル。旅には想定外の、思い掛けないことが次々起こる。それでもその旅をやめない旅人。旧約聖書では、神あるいは御使いが旅人の姿に変装して、信仰者の家を訪問することがあるんです。まさか御使いとは思わずにおもてなしをした家は祝福される。そんな話が旧約聖書にたくさん出て来ます。旅人でユダヤ人が最初に浮かべるイメージは、“神によって遣わされた、旅人に変装した人” じゃないかと思います。

旅をしていた一人のサマリア人。実はイエスのことなんですよ。イエスは天というご自分の家を出て、旅をしてこの世界に来てくださいました。しかし、人々はイエスを、処女から産まれるなんてあり得ない。私生児だと。

当時のユダヤ人は人種差別してました。ユダヤ人はサマリア人が嫌いで、見下していました。今半殺しになっているのはユダヤ人です。日頃からユダヤ人に軽蔑され、嫌な思いをいっぱい受けているサマリア人が、半殺しになっているユダヤ人を見てかわいそうだと。普通、思いますか？

去年かな、役所広司が出てる『PERFECT DAYS』という映画がありました。賛否両論分かれる映画だと思いますが。役所広司はトイレの清掃人です。毎朝同じ時間に起きて、歯磨きして、植物に水をやり、コーヒーを飲み、同じ時間に出て行く。仕事はまだ明るいうちに同じ時間に終わって、行きつけの居酒屋で晩ご飯食べて、銭湯に行って、アパートに戻って、読書して、同じ時間に寝る。というのを永遠にする。そんな映画、見たい？

だけど、この人幸せそうなんです。一瞬一瞬を大切に生きていくというか。起きた時に朝焼けの空を見て「自然ていいなあ。」休憩中に木漏れ日の美しい情景を見たら、スマホでカシャッと撮って。深呼吸して「ああ気持ちいい。」何か大きな力で生かされて。時々事件が起こるけど、大した事件じゃないんですよ。♪毎日毎日、ぼくらは鉄板の♪ 同じことがずっと繰り返されて行く中で、何も起こらない日々がなんと幸せか。

ある日、妹が来ます。妹は運転手付きのリッチな車に乗って来るんです。

娘が家出して、役所広司のところに転がり込んだんですね。彼女を連れ戻しに来た。妹が「お兄さん、トイレの清掃人やってんの？」  
彼が「うん」と頷いた時、彼女はもう何とも言えん表情で。これは役者が巧かった。軽蔑とも失望とも哀れみとも違う、もう何とも言えない表情を見せて、黙って去って行くんです。

役所広司が以前どんなところにいたのかなどは一切触れません。  
何かがあって、今その仕事をしている。その生活の一瞬一瞬を彼は慈しんでいる。自分は幸せだと思って生きている。  
でも、妹が何とも言えない表情を見せて、黙って立ち去った後、彼は泣くんです。

色んなことに耐えられても、軽蔑に耐えるって本当に難しい。  
血を分けた肉親の妹から「誇らしい兄さんであってほしかったのに、そうではない」みたいな、そんなこと口に出してないけど、何とも言えないものが伝わるんですよね。彼は一人ぼっちになった部屋の中で、すすり泣くんです。

サマリア人はもっとあからさまに、「おまえサマリア人だ。混血だ。ヘンテコリンな宗教だ」と軽蔑に軽蔑されていました。  
日頃自分を軽蔑している人が酷い目に遭ったら、「ざまあみろ！」となっても当然なのに、**かわいそうに思った**。  
こんな感情を持つことができるというのは、ただの人間じゃないんです。

**かわいそうに思う**はギリシア語でスプラクニゾマイ。直訳は“内臓が飛び出す”。日本語であまりにも悲しい時に“断腸の思い”言うじゃないですか。腸が千切れる。肉体の苦しみをもって心の悲しみを表現する。“魂が張り裂ける”とか言いますね。神とはそんな方なんだと。

神は人から、ふさわしい態度を取られていない。  
人種差別の見下しているような態度で、「神なんか要らん！」「今足りてますから要りません！」まさにイエスがそうでした。私生児と言われて。  
しかし、神様の愛はこんな愛なんです。

人間は「I love you.Because you are/richman/beautiful/handsome/clever.」  
あなたを愛します。あなたはきれいだから。かわいいから。金持ちだから。賢いから。価値があるから。役に立つから。  
だけど、God loves you.Because God is love.  
神があなたを愛する理由は、あなたの中にはありません。  
神は愛だから、ご自分の性質に立脚してあなたを愛するんです。

どんなに愛されないようなことをやらかしている時でも、どんなに酷い罪を犯している時でも、神は愛なので、その人を愛さずにはおれない。  
どのくらい？かわいそうに思うくらい。内臓が飛び出すような思いで、このままならこの人は死んでしまうと、自分の悲しみのように感じて霊が激動する。

それが人となられた神、イエス・キリストです。

### **34 そして近寄って、傷にオリーブ油とぶどう酒を注いで包帯をし、自分の家畜に乗せて宿屋に連れて行って介抱した。**

ぶどう酒は殺菌作用があり、オリーブ油は傷の再生に役立つと言われていて、特にエキストラバージンオイルは、昔から薬として使われていました。これは両方ともサマリア人の持ち物です。

オリーブ油はオリーブの実に重りを乗せて実を潰し、搾ってオイルが出て来る。このオリーブ搾り、油搾りという意味の地名がイスラエルにあります。ゲッセマネです。ゲッセマネは、イエスが十字架にかかる直前に祈った場所。そこで神の目に見えないプレッシャーの下、弟子たちに「わたしは悲しみのあまり死ぬほどです。」「目を覚まして祈っていなさい。」そして、血の汗が流れた。人間の死の原因を考えた時、そして、それを癒すために自分がしなければならないことを思った時に、イエスは死ぬような思いになった。あまりの悲しみ、それは死を味わうような悲しみだったんですね。

ぶどう酒。イエスは最後の晩餐の時に、「このぶどう酒は、わたしの新しい契約の血です。これを覚えて回し飲みしなさい」と言われました。契約の血。イエスはゲッセマネで祈っただけでなく、十字架にかかって血を流してくださった。私たちの罪を完全に癒すもの、それは救い主の自己犠牲なんです。キリストのいのちが私の罪の償いの代価として支払われるので、神は私を赦すことができるんですね。それを、罪という傷を癒す行動の中に表しているんです。

自分の家畜に乗せて宿屋に連れて行って介抱した。

ずっと現場にいるのではなく、宿屋に連れて行って介抱した。

このサマリア人が常宿にしている所、彼がしたいようにできる宿屋はどこだろう。私のイメージは教会ですね。私も一人で聖書を読んでクリスチャンになったんじゃない、ここの集会に導かれてクリスチャンになったんです。

神様は全知全能なので自由自在に働くことができますが、基本的には人を使って導くことが多いです。既にイエスを信じているクリスチャンを使って、聖書を聞かせたり、聖書の解説をさせたり、色んな質問に答えたり。私の場合は家族に恵まれない生い立ちだったので、この集会に来て家族を見つけたんです。疑似家族というか。ここで妻を見つけました。ほんまの家族になりました。

私は非常識人間で、今ではこんなに立派に…今でも非常識なんです。

そんなこと、日々言われてますから分かってるんですよ。

僕はここに18歳で来ました。18の男子高校生って非常識やで！

だからここで、クリスチャンになった後もいっぱい叱られました。

「高原君、そんなことするもんじゃないの！」「そんな言葉遣い、するもんじゃないの！」「ちゃんと手洗った？」

もう、ネクタイの締め方から靴の履き方に至るまで、そんな家で教えてくれる人、だれもいなかったので手取り足取り。いっぱい叱られたけど、あまりにも勝手な人間を、もういっぺん躰け直してくれてるんやなど。家族やから、そうやって教えてくれてるんやなと思いました。

教会はちょうど、傷つけられたこの旅人が運ばれた宿屋みたいなところですよ。キリストは私たちに福音を伝えるだけでなく、いのちを献げるだけでなく、それを理解できるように協力する人間の器を用いて、そういうところに導いてくださるんです。皆さんも導かれてるんですよ。

「えっ、ここ宿屋？ 親切な宿屋って思ったことない！」段々分かるから。もうちょっと我慢して、長い目で様子見てやってください。

**35 次の日、彼はデナリ二枚を取り出し、宿屋の主人に渡して言った。「介抱してあげてください。もっと費用がかかったら、私が帰りに払います。」**

1 デナリは成人男性が一日働いて得る給料と言われています。宿屋なら1泊分。まず介抱しました。翌日、行く所があるからと2デナリ渡して、足らなかつたら帰りに払う。つまり、初日の次の日に2デナリ渡したということは、3日目に姿を現すんですよ。

キリストは十字架にかかって死なただけではなく、死んで墓に葬られた。弟子たちはイエスを見ることはできなかつたけど、3日目の朝、イエスは弟子たちの前に姿を現して、「わたしはよみがえりです」と言われました。死の問題は完全解決したことが一目で分かるように、復活の姿を見せてくださったんです。この方はよみがえりの主です。つまり、今生きています。今日には見えないけど、皆さんのすぐ傍らにおられる方なんですよ。

そして、先ほどの質問に戻ります。

**36 この三人（祭司・レビ人・サマリア人の旅人）の中でだれが、強盗に襲われた人の隣人になったと思いますか。」**

**37a 彼は言った。「その人にあわれみ深い行いをした人です。」**

こう言ってもいいけど、答えは「サマリア人です」よね。サマリア人をあまりにも軽蔑しているから、サマリア人と発音するのも嫌だったんです。だから「あわれみ深い行いをした人です。」

**37b するとイエスは言われた。「あなたも行って、同じようにしなさい。」**

このサマリア人と同じようにしようとしたら、できないことが分かるんです。この律法の専門家は、自分の正しさを証明するために聖書を使ったんですが、その道では永遠のいのちを持つことはできない。

このたとえ話の中で、良きサマリア人はイエスを指しています。

では、強盗に襲われた人は誰を指しているのか。「律法の専門家よ、あなただ。」

